

産業廃棄物処理計画実施状況報告書

令和7年6月26日

広島県知事 様

提出者

住所 広島県安芸郡府中町新地3-1

氏名 マツダエース株式会社
代表取締役社長 埴森 敦己
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 082-565-6611

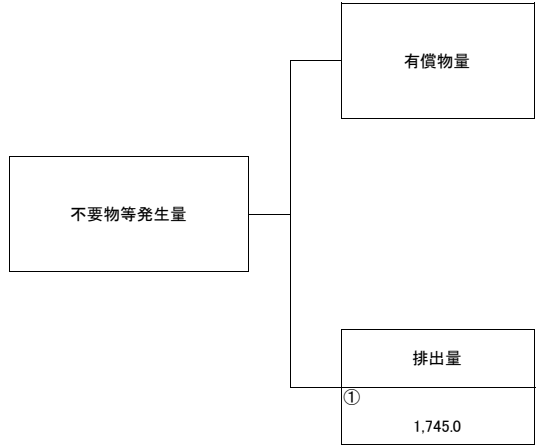
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第10項の規定に基づき、令和6年度の産業廃棄物処理計画の実施状況を報告します。

事業場の名称	マツダエース株式会社		
事業場の所在地	広島県安芸郡府中町新地3-1		
事業の種類	建設業、その他サービス業		
産業廃棄物処理計画における計画期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日		
産業廃棄物処理計画における目標値		別紙4のとおり	
項目	目標値	項目	目標値
排出量	1,701.0 t	全処理委託量	1,701.0 t
自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	優良認定処理業者への処理委託量	1,320.6 t
自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	再生利用業者への処理委託量	0 t
自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0 t	認定熱回収業者への処理委託量	0 t
自ら埋立処分又は海洋投棄処分を行う産業廃棄物の量	0 t	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t

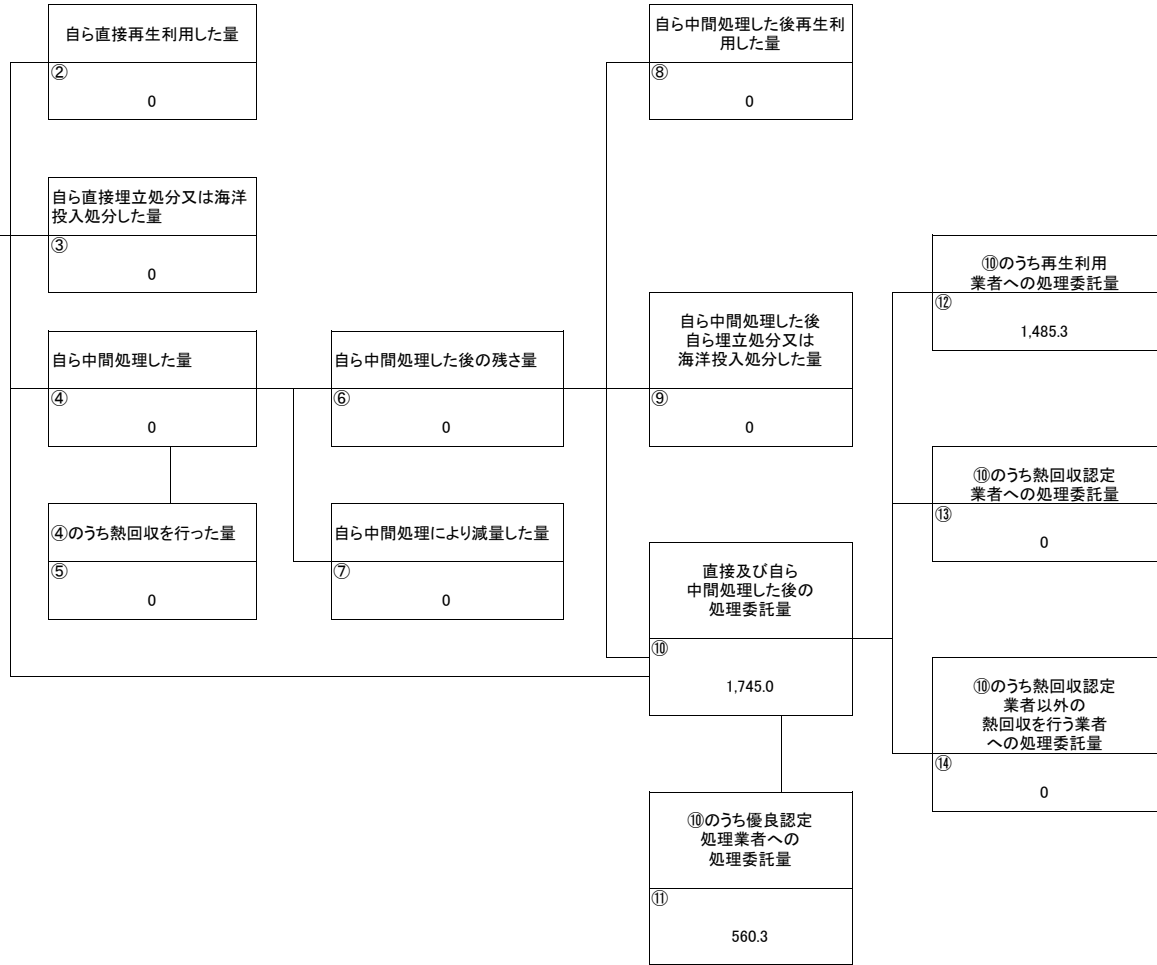
計画の実施状況

(産業廃棄物の種類:)

別紙3のとおり



項目	実績値
①排出量	1,745.0
②+⑧自ら再生利用を行った量	0
⑤自ら熱回収を行った量	0
⑦自ら中間処理により減量した量	0
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0
⑩全処理委託量	1,745.0
⑪優良認定処理業者への処理委託量	560.3
⑫再生利用業者への処理委託量	1,485.3
⑬熱回収認定業者への処理委託量	0
⑭熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0



(第3面)

備考

- 1 翌年度の6月30日までに提出すること。
- 2 「事業の種類」の欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- 3 「産業廃棄物処理計画における目標値」の欄には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載した目標値を記入すること。
- 4 第2面には、前年度の産業廃棄物の処理に関して、①～⑭の欄のそれぞれに、(1)から(14)に掲げる量を記入すること。
 - (1) ①欄 当該事業場において生じた産業廃棄物の量
 - (2) ②欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら再生利用した量
 - (3) ③欄 (1)の量のうち、中間処理をせず直接自ら埋立処分又は海洋投入処分した量
 - (4) ④欄 (1)の量のうち、自ら中間処理をした産業廃棄物の当該中間処理前の量
 - (5) ⑤欄 (4)の量のうち、熱回収を行った量
 - (6) ⑥欄 自ら中間処理をした後の量
 - (7) ⑦欄 (4)の量から(6)の量を差し引いた量
 - (8) ⑧欄 (6)の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却した量
 - (9) ⑨欄 (6)の量のうち、自ら埋立処分及び海洋投入処分した量
 - (10) ⑩欄 中間処理及び最終処分を委託した量
 - (11) ⑪欄 (10)の量のうち、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量
 - (12) ⑫欄 (10)の量のうち、処理業者への再生利用委託量
 - (13) ⑬欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量
 - (14) ⑭欄 (10)の量のうち、認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量
- 5 第2面の左下の表には、項目ごとに、産業廃棄物処理計画に記載したそれぞれの実績値を記入すること。
- 6 産業廃棄物の種類が2以上あるときは、産業廃棄物の種類ごとに、第2面の例により産業廃棄物処理計画の実施状況を明らかにした書面を作成し、当該書面を添付すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別紙3-その1(廃棄物処理法-産業廃棄物処理計画実施状況報告書)
(6年度実績)

別紙3-その2

単位:トン/年

	単位:トン/年														実績値									
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	①	②+⑧	⑤	⑦	③+⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭
産業廃棄物の種類	排出量	自ら直接再生利用した量	自ら直接埋立処分又は海洋投入処分した量	自ら中間処理した量	④のうち熱回収を行った量	自ら中間処理した後の残量	自ら中間処理により減量した量	自ら中間処理した後、再生利用した量	自ら中間処理した後、埋立処分又は海洋投入処分した量	直接及び自ら中間処理した後の処理委託量	⑪のうち優良認定処理業者への処理委託量	⑫のうち再生利用業者への処理委託量	⑬のうち熱回収認定業者への処理委託量	⑭のうち熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	排出量	自ら再生利用を行った量	自ら熱回収を行った量	自ら中間処理により減量した量	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	全処理委託量	優良認定処理業者への処理委託量	再生利用業者への処理委託量	熱回収認定業者への処理委託量	熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量
燃え殻		0	0	0	0	0	0	0	0						0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
汚泥	291	0	0	0	0	0	0	0	0	291	59	18	0	0	291	0	0	0	0	291	59	18	0	0
廃油	118	0	0	0	0	0	0	0	0	118	108	36	0	0	118	0	0	0	0	118	108	36	0	0
廃酸		0	0	0	0	0	0	0	0				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
廃アルカリ	23	0	0	0	0	0	0	0	0	23	7	20	0	0	23	0	0	0	0	23	7	20	0	0
廃プラスチック類	178.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	178.6	0.5	115.8	0.0	0.0	178.6	0.0	0.0	0.0	0.0	178.6	0.5	115.8	0.0	0.0
紙くず	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2	0.2	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2	0.2	0.0	0.0
木くず	27.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	27.7	5.0	8.1	0.0	0.0	27.7	0.0	0.0	0.0	0.0	27.7	5.0	8.1	0.0	0.0
繊維くず		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0				0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
動植物性残さ		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0				0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
動物系固形不要物		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0				0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ゴムくず	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.5	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.5	0.0	0.0
金属くず	228.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	228.2	63.7	223.2	0.0	0.0	228.2	0.0	0.0	0.0	0.0	228.2	63.7	223.2	0.0	0.0
ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	156.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	156.0	88.0	7.8	0.0	0.0	156.0	0.0	0.0	0.0	0.0	156.0	88.0	7.8	0.0	0.0
鋳さい		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0				0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
がれき類	402.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	402.1	95.3	470.1	0.0	0.0	402.1	0.0	0.0	0.0	0.0	402.1	95.3	470.1	0.0	0.0
動物のふん尿		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0				0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
動物の死体		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0				0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ばいじん		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0				0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
建設混合廃棄物	305.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	305.1	125.6	584.0	0.0	0.0	305.1	0.0	0.0	0.0	0.0	305.1	125.6	584.0	0.0	0.0
石綿含有産業廃棄物	10.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.1	7.0		0.0	0.0	10.1	0.0	0.0	0.0	0.0	10.1	7.0	0.0	0.0	0.0
水銀使用製品産業廃棄物	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.6	2.2	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.6	2.2	0.0	0.0
廃石膏ボード	3.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.5			0.0	0.0	3.5	0.0	0.0	0.0	0.0	3.5	0.0	0.0	0.0	0.0
鉛蓄電池	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.1		0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.1	0.0	0.0	0.0
合計	1745.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1745.0	560.3	1485.3	0.0	0.0	1745.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1745.0	560.3	1485.3	0.0	0.0

別紙4(廃棄物処理法-産業廃棄物処理計画実施状況報告書)

(令和6 年度実績)

単位:トン/年

	目標値		実績値
排出量	1,701.0	①排出量	1745.0
自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0	②自ら直接再生利用した量	0
自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0	⑤自ら熱回収を行った量	0
自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0	⑦自ら中間処理により減量した量	0
自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0	③自ら埋立処分又は海洋投入処分した量	0
全処理委託量	1,701.0	⑩全処理委託量	1745.0
優良認定処理業者への処理委託量	1,320.6	⑪優良認定処理業者への処理委託量	560.3
再生利用業者への処理委託量	1,198.2	⑫再生利用業者への処理委託量	1485.3
熱回収認定業者への処理委託量	0	⑬熱回収認定業者への処理委託量	0
熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0	⑭熱回収認定業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0

産業廃棄物処理計画書

令和7年6月26日

広島県知事 様

提出者

住所 広島県安芸郡府中町新地3-1

氏名 マツダエース株式会社
代表取締役社長 埴森 敦己

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 082-565-6611

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	マツダエース株式会社
事業場の所在地	広島県安芸郡府中町新地3-1
計画期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項 別紙1、2のとおり	
①事業の種類	
②事業の規模	
③従業員数	
④産業廃棄物の一連の処理の工程	

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

別紙1、2のとおり

(管理体制図)

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

別紙1、2のとおり

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の分別に関する事項

別紙1、2のとおり

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

別紙1、2のとおり

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

別紙1、2のとおり

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組)			

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

別紙1、2のとおり

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

別紙1、2のとおり

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理 委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		

②計画	【目標】 別紙1、2のとおり	
	産業廃棄物の種類	
	全処理委託量	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t
	再生利用業者への処理委託量	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t
	(今後実施する予定の取組)	
※事務処理欄		

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別紙1(廃棄物処理法-産業廃棄物処理計画書)

現状：前年度(令和6年度)実績量

計画：今年度(令和7年度)計画量

単位:トン/年

産業廃棄物の種類	排出抑制に関する事項		自ら行う再生利用に関する事項		自ら行う中間処理に関する事項				自ら行う埋立処分等に関する事項		処理委託に関する事項									
	排出量 (前年度実績値の①)		自ら再生利用を行う産業廃棄物の量 (前年度実績値の②+⑧)		自ら熱回収を行う産業廃棄物の量 (前年度実績値の⑤)		自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量 (前年度実績値の⑦)		自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量 (前年度実績値の③+⑨)		全処理委託量 (前年度実績値の⑩)		優良認定処理業者への処理委託量 (前年度実績値の⑪)		再生利用者への処理委託量 (前年度実績値の⑫)		認定熱回収業者への処理委託量 (前年度実績値の⑬)		認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量 (前年度実績値の⑭)	
	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画	現状	計画
燃え殻																				
汚泥	290.6	276.1	0	0	0	0	0	0	0	0	290.6	276.1	59.4	56.4	17.8	16.9	0	0	0	0
廃油	117.5	111.6	0	0	0	0	0	0	0	0	117.5	111.6	108.5	103.0	35.8	34.0	0	0	0	0
廃酸			0	0	0	0	0	0	0	0							0	0	0	0
廃アルカリ	23.2	22.0	0	0	0	0	0	0	0	0	23.2	22.0	6.6	6.3	19.9	18.9	0	0	0	0
廃プラスチック類	178.6	169.7	0	0	0	0	0	0	0	0	178.6	169.7	0.5	0.5	115.8	110.0	0	0	0	0
紙くず	0.2	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0.1	0.2	0.1	0.2	0.1	0	0	0	0
木くず	27.7	26.3	0	0	0	0	0	0	0	0	27.7	26.3	5.0	4.7	8.1	7.7	0	0	0	0
繊維くず																				
動植物性残さ																				
動物系固形不役物																				
ゴムくず	0.5	0.5									0.5	0.5	0.0	0.0	0.5	0.5				
金属くず	228.2	216.7	0	0	0	0	0	0	0	0	228.2	216.7	63.7	60.5	223.2	212.1	0	0	0	0
ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	156.0	148.2	0	0	0	0	0	0	0	0	156.0	148.2	88.0	83.6	7.8	7.4	0	0	0	0
鉱さい																				
がれき類	402.1	382.0	0	0	0	0	0	0	0	0	402.1	382.0	95.3	90.5	470.1	446.6	0	0	0	0
動物のふん尿																				
動物の死体																				
ばいじん																				
建設混合廃棄物	305.1	289.8	0	0	0	0	0	0	0	0	305.1	289.8	125.6	119.3	584.0	554.8	0	0	0	0
石綿含有産業廃棄物	10.1	9.6	0	0	0	0	0	0	0	0	10.1	9.6	7.0	6.6			0	0	0	0
水銀使用製品産業廃棄物	0.6	0.6	0	0	0	0	0	0	0	0	0.6	0.6	0.6	0.6	2.2	2.1	0	0	0	0
廃石膏ボード	3.5	3.3	0	0	0	0	0	0	0	0	3.5	3.3		0.0			0	0	0	0
鉛蓄電池	1.1	1.1	0	0	0	0	0	0	0	0	1.1	1.1	0.1	0.1			0	0	0	0
合計	1,745.0	1,657.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1,745.0	1,657.7	560.3	532.3	1,485.3	1,411.1	0	0	0	0

別紙2（廃棄物処理法-産業廃棄物処理計画書）

1 当該事業場において行っている事業に関する事項

①事業の種類	その他サービス業																					
②事業の規模	売上高201.4億円（2025年3月期）																					
③従業員数	1,085名（2025年3月31日現在）																					
④産業廃棄物の一連の処理の工程	産業廃棄物発生⇒廃棄物の分別・保管管理⇒廃棄物に応じて産業廃棄物処理業者へ委託処分 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>中間処分</th> <th>最終処分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>がれき類</td> <td>選別・破砕</td> <td>資源として再利用、あるいは埋立</td> </tr> <tr> <td>木くず</td> <td>破砕</td> <td>資源として再利用</td> </tr> <tr> <td>建設混合物</td> <td>選別・破砕</td> <td>資源として再利用、あるいは埋立</td> </tr> <tr> <td>廃アルカリ</td> <td></td> <td>資源として再利用</td> </tr> <tr> <td>金属くず</td> <td>圧縮</td> <td>資源として再利用</td> </tr> <tr> <td>廃プラ</td> <td>破砕</td> <td>資源として再利用、あるいは埋立</td> </tr> </tbody> </table>		中間処分	最終処分	がれき類	選別・破砕	資源として再利用、あるいは埋立	木くず	破砕	資源として再利用	建設混合物	選別・破砕	資源として再利用、あるいは埋立	廃アルカリ		資源として再利用	金属くず	圧縮	資源として再利用	廃プラ	破砕	資源として再利用、あるいは埋立
	中間処分	最終処分																				
がれき類	選別・破砕	資源として再利用、あるいは埋立																				
木くず	破砕	資源として再利用																				
建設混合物	選別・破砕	資源として再利用、あるいは埋立																				
廃アルカリ		資源として再利用																				
金属くず	圧縮	資源として再利用																				
廃プラ	破砕	資源として再利用、あるいは埋立																				

2 産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項（管理体制図等、別紙を参照）

3 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	（これまでに実施した取組） 鉄くずや電線・ケーブルの分離・分別による有価物化の推進 再生可能な廃油の有価物化や、梱包資材の再利用による排出量の抑制
②計画	（今後実施する予定の取組） 上記取組を継続実施 電子化による紙製品の削減、生産マネジメントの精緻化による紙廃棄量の削減

4 産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 金属屑、配線類、木材、紙くず他、廃プラ、がれき、ガラス屑、ダンボール、廃電池など、再生利用可能品と特別管理廃棄物、産業廃棄物を分別し保管
②計画	（今後、分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 上記取組を継続実施

5 自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	（これまでに実施した取組） 該当なし
②計画	（今後実施する予定の取組） 該当なし

6 自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	(これまでに実施した取組) 該当なし
②計画	(今後実施する予定の取組) 該当なし

7 自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	(これまでに実施した取組) 該当なし
②計画	(今後実施する予定の取組) 該当なし

8 産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	(これまでに実施した取組) ・産業廃棄物処理について、全ての産業廃棄物の収集・運搬及び、中間処分業者と適正に委託契約を締結し、再生拡大、最終処分量削減に努め、再資源化率の向上を行っている ・優良認定処分業者での処理の比率を前年度より増加させ、より確実な処理の推進を図っている
②計画	(今後実施する予定の取組) 再生利用の拡大を推進するために、優良認定業者を含む処分業者の開拓を進め、より確実な再資源化率の向上を図る

マツダエース(株) 環境管理組織表

